

# ボランティア



# Osaka

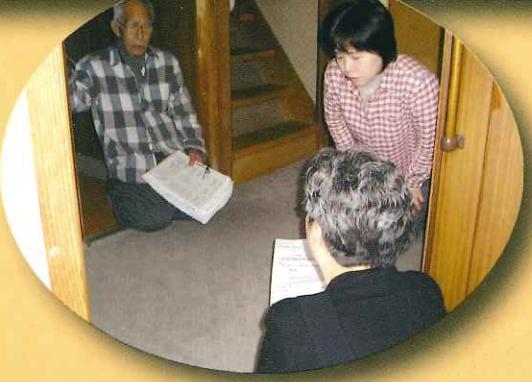
発行 (福)大阪府社会福祉協議会  
大阪府ボランティア・  
市民活動センター

Vol.50  
2007 Autumn



## 特集

# 日常のボランティア活動から 防災を考える



# ZOOM UP! このボラセンの 広報戦略

## ボラ連の仲間が手づくりで発行している機関紙「なかま」

### 交野市ボランティアグループ連絡会

#### ●毎月1200~1300部をつくり、 学校や図書館、福祉施設などにも配布

交野市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、高齢者や障害者をサポートするグループなど17の登録団体がそれぞれの活動に取り組んでいます。

登録団体は交野市ボランティアグループ連絡会（以後・ボラ連）を組織していますが、月刊で発行されている「なかま」

は、連絡会の機関紙であり、同時に、広く市民にむけたボランティア活動の啓発紙の役割も果たしています。ボラ連の役員を中心に、有志、職員も加わって和気あいあい、みんなで相談しながらA4・4ページの機関紙を手づくり。基本は2色刷りですが、ときに3色になることもあります。約1200~1300部が毎月、登録団体のメンバーおよび市内の学校や図書館、福祉施設や教育委員会などに届けられています。

取材の日は、ちょうど月1回（毎月の第1月曜）の印刷作業と会議の日。約10人のボランティアメンバーが楽しく作業に取り組んでおられました。「午前中に印刷をし、昼食を挟んで午後から編集会議をするのがいつものパターンです」とボラ連会長の吉田朋子さん。校区福祉委員会の活動にも積極的に取り組んでおられる方です。

「企画はもちろん、取材、原稿の執筆もボラ連のメンバーでやっています。まさにボランティアの手づくり。イラストなども上手な方がいて、まさにみんなが力を合わせてつくっている…という感じです。それがボラ連の結束にもつながっていると思いますね」と語るのは編集



シンボルマークのデザイン  
は島田知子さん

長格の栗原清美子さん。以前はボラ連の会長も務めていました。

編集会議→執筆→校正→レイアウト→再校正→配達というものが全体の工程ですが、郵送を節約するため、すべて手渡しとポスティングで配布しており、こうしたデリバリーの体制を整えているのも大きな特徴と言えそうです。

#### ●「ボランティア協会」時代からの自主・自立の気概

これは、交野市ボランティアグループ連絡会の、長年の自主的な活動歴と無関係ではありません。ボラ連の前身として、交野市では昭和52年より交野市ボランティア協会が市民の自主的組織として設立され、市内のさまざまな活動の連絡・調整機関として機能してきたと言います。それが、昭和67年の社協ボランティアセンター発足と同時に社協登録グループの「ボラ連」になったという経緯があり、「その意味では、社協ボラセンよりボラ連のほうが歴史は古いんです（笑）」と吉田さんと栗原さん。「自分たちで企画し、取り組む」という気風は、昔から身につけていたと言えるかもしれません。

「なかま」の印刷機とインク代は社協もちですが、紙代やその他の経費はボラ連の負担で、そうした経費は「イベント時のバザーや模擬店などの収益をあてている」とのこと。

ときには、「なかま」を読んで活動に参加する人もいて、「そんなときが一番うれしいですね」とメンバーの皆さんには口を揃えます。

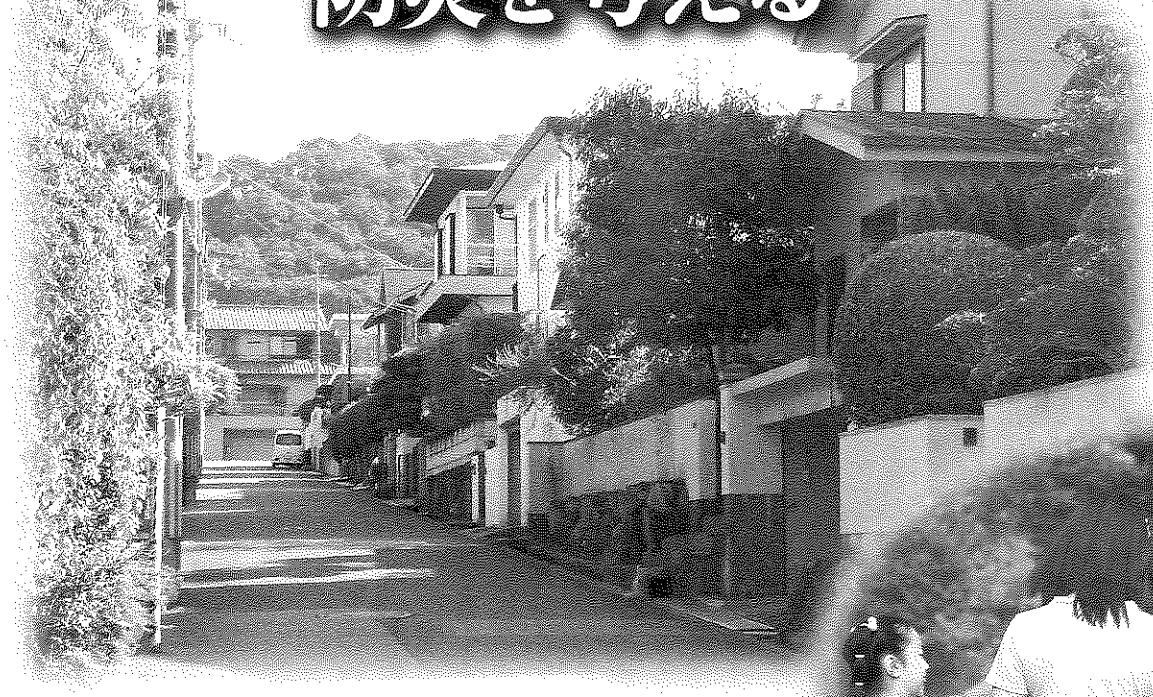
とは言っても、デリバリー（配達）を含めて、人手はまだまだ不足しているのが現状。お二人からは「仲間募集中！」と書いておいてねとの注文も承ってきましたが、市民が自主的に、まさにボランタリーに発行を続けている素敵な機関紙です。



月1回の印刷作業と会議の日に集まった皆さん

## 〈特集〉

# 日常のボランティア活動から 防災を考える



あの阪神・淡路大震災以降も、災害は続いています。

しかし阪神・淡路大震災のときが「ボランティア元年」と言われたように、以降の災害では、各地からボランティアが被災地にかけつけ、現地のボランティアセンターのコーディネートのもと、効果的・効率的に動く姿が多く見られるようになってきました。

いろいろな経験から学んできたことが大きかったのだと思いますが、なかでも大切なのが、日ごろからの「いざというときに備えた」日常的な活動です。突然の災害に見舞われたとき、まず何をすべきか。被災状況の全体を把握するため、誰が、どう動くのか。そしてお年寄りや障害者など、災害時要援護者の安否確認は…。

これらは言うまでもなく、日ごろからの「福祉のまちづくり」の活動があつてこそ、うまくいくものです。

今回は、平時の活動を通じて「災害に強いコミュニティづくり」に取り組んでいる、府内の活動を取材しました。

# 市内の多様多種な団体が参加 社協登録ボランティアグループをはじめ、

豊中市社協災害支援ネットワーク



左から斎藤さん、榎本さん、堀端さん

## 「災害支援活動マニュアル」

平成7年（1995年）の阪神・淡路大震災で豊中市も大きな被害を被りましたが、直後に、豊中市災害支援ボランティアセンターが組織されたことを記憶の方も多いと思います。そして市の緊急支援が一段落した後は、多くの豊中市民が神戸の各地へボランティアに出かけたことも広く知られています。そんな当時、豊中市社会福祉協議会では翌平成8年に「豊中市社協災害支援ネットワーク」を組織化。以来、

成した「災害支援活動マニュアル」は高く評価されています。そして、これから12年。豊中ではいまなお継続的に訓練、情報交換、啓発などの活動を続け、「被災地ならではの取り組み」が進められています。

現在、この「豊中市社協災害支援ネットワーク」に参加しているのは、10の社協登録ボランティアグループを含めた35団体。ボランティア団体連絡会参画団体、消費者団体や労働組合も加わり、①緊急時に備えた登録・活動システム、②核となるボランティアの確保、③災害時のボランティア活動マニュアル、④災害の教訓を風化させない啓発活動などを柱に、さまざまな活動に取り組んでいます。

「あの経験を風化させない」ということがまず大事だと思います。昨年も市の危機管理室の方に来ていただき研修会を開きましたが、あらためて日ごろの備えの大切さを痛感すると同時に、阪神・淡路大震災を経験した私たちがあの体験を語り継ぐことの必要性を感じています」と語るのは堀端治夫さん。

## シニア世代のNPO団体、NALC（ナルク）のメンバーでもあります、が、

「災害支援でポイントになるのは、やはりロジスティック（食料補給などを含めた後方支援体制）。そのためにも、平時からのネットワークが大切」と続けます。

シニア世代のNPO団体、NALC（ナルク）のメンバーでもあります、が、

「災害支援でポイントになるのは、やはりロジスティック（食料補給などを含めた後方支援体制）。そのためにも、平時からのネットワークが大切」と続けます。

## 大切な、日ごろからの 「災害時要援護者」の把握

斎藤杏子さんは、高齢者に寄り添う活動に取り組んでいる「ステッキ」のメンバー。それだけに「災害時要援護者についての情報把握が大切」と語ります。

榎本勤さんも移送ボランティア「豊中アッシー」のメンバーとして高齢者に関する立場から、斎藤さんの意見にうなづきます。昨年8月、豊中市は1時間に110ミリという記録的な集中豪雨に見舞われましたが、榎本さんは床に浸水した一人暮らしの高齢者宅の、畳や家財道具の片付けに奮闘。「日ごろの学習や訓練が役立ちました

（ナルク）のメンバーでもあります、が、

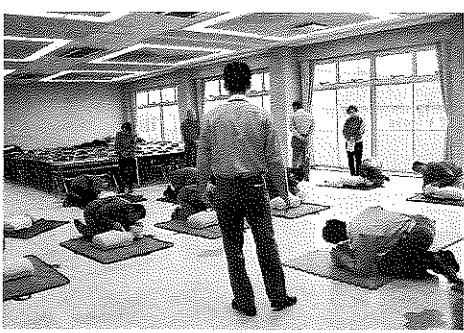
「災害支援でポイントになるのは、やはりロジスティック（食料補給などを含めた後方支援体制）。そのためにも、平時からのネットワークが大切」と続けます。

「作業所連絡会」を組織しており、災害支援ネットワークではこうした「当事者団体」や校区福祉委員会などの連携を密にしながら、素早い安否確認と支援体制の構築をめざしています。

また毎年、1月には市社協と災害支援ネットワークで防災訓練を行なっていますが、いざというときにモノをいふのが、3人の皆さんが言われるような「平時からのネットワーク」、すなわち「日ごろからの関係づくり」。その意味からも、豊中市社協災害支援ネットワークの取り組みは、他の市町村にとっても大いに参考になります。



昨年の集中豪雨では「豊中アッシー」のメンバーが大活躍



熱心に救命訓練

ました」とのこと。

こうした災害時要援護者の把握は重要なポイントですが、この面では、校区福委員会もまた大きな役割を果します。豊中市社協では「ひとり暮らしの老人の会」「老人介護者（家族）の会」

# もしも…のとき、どのようにすればいいのか



非常食の試食会も行ないました

アセンターチー検討会（以後・SVCK）の定例事務局会議（毎月20日）の日。和泉市ボランティア市民プラザ「アイ・あいロビー」では、5人のメンバーがさまざまな議題について語り合っていました。

SVCKと略称されるこの検討会は、

平成16年に行われた府社協の災害ボランティア研修やワークショップに参加したメンバーが中心になり、17年の6月に立ち上がりました。アイ・あいロビーは市民がボランティアアドバイザーを担うなど、市民参加で運営されているボランティアセンターです。この災害ボランティアセンター検討会のプログラムも、市民が参加する運営委員会の承認を得て、アイ・あいロビーの事業としてスタート。現在、30名の個人メンバーと20近くのグループが参加し、非常食の試食会を開くなどのさまざまな活動を展開しています。

「11月のボランティアフェスティバルにコーナー出展するんだけど、中身はどうしようか」「身近にあるものがアイデアひとつで防災グッズになるけれど、そんな事例を展示するのはどう?」「段ボールとラップでギブスになるとか、ペットボトルが湯たんぽに…とか、タオルで頭巾、さらしてネンネコ…とかだよね」「それと、SVCK独自の防災リーフレットを作りたいんだけれど…」

取材の日は、和泉市の災害ボランティ

CKの発起人でもある池辺豪俊さん（まちづくり）、木野文生さん（国際交流）、津田慶子さん（点訳）、三宅正矩さん（ボイスカウト・自主防災）がこの日の参加

メンバー。あいにく欠席の篠子鶴子さん（手話）、澤田恒夫さん（ボイスカウト・環境）を加えた7名に、社協職員が加わった8名でSVCKの事務局は構成されています。

③は災害ボランティアセンターとしてのコーディネート機能の強化を目指すものですが、全体を通じて「より具体的な提案・啓発」が目指され、この日もそれが話し合われました。たとえば、年齢や家族構成でニーズも違ってくるし、アレルギーの有無などもわかっているに越したことはありません。また飲み水の蓄えもエレベーターが動かなくなつた高層マン

ションであれば、数日分が必要になるなど、話しかけると「啓発すべきこと」は次々と出てきます。「それを簡単なりフレットにまとめて市民の皆さんに配布したいんですけど」とメンバーの皆さん。メーリングリストの立ち上げも計画中で、取り組みが始まつてまだ日は浅いものの、着々と実績をあげているSVCKの活動です。

## 桃山大学と連携し、市民・学生対象の啓発イベントも計画中

これまで、和歌山県広川町の「稲村の火の館」の見学など、さまざまな研修会に参加したり講演会を開催したりしてきましたが、活動の方向はおおまかに、正しい情報伝達の仕組みを構築する。福祉施設や諸団体とアイ・あいロビーとの日ごろのネットワークを構築する。ボランティア活動の体制づくり：の3つにまとめられると言います。①について

は、災害時にはパニックになり、情報が錯綜しデマも飛び交います。そんななかで、いかに正確な情報をキャッチし関係者に伝えるかは重要で、SVCKの大きな役割だというわけです。そのためにも②の「日ごろからの顔の見える関係」が大切で、これについては近く、桃山学院大学と災害時の連携をめざすための協働プログラムが計画されているとのこと。

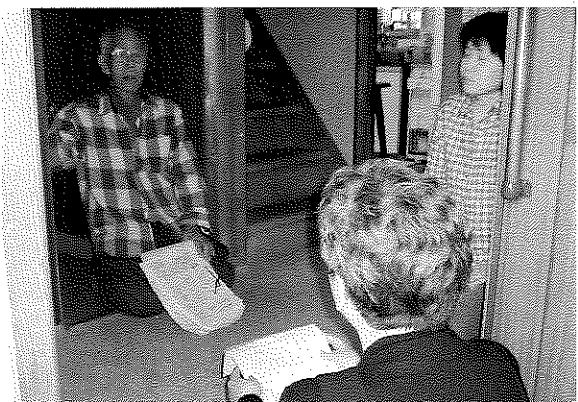


SVCKの皆さん

## 和泉市・災害ボランティアセンター検討会

# 高齢者や障害者の日常生活を見守り 声かけ訪問、電話での安否確認などで

## 阪南市社協・「くらしの安心ダイヤル」活動



声かけ訪問をし、行事などを知らせる「くらしの安心ダイヤル」のメンバー



福島校区の「くらしの安心ダイヤル」電話での声かけ



校区の行事へのお誘い

### ていねいな見守り活動で 事故や急病人を救う

阪南市社会福祉協議会では、高齢者や障害者など暮らしに不安のある方々の日常生活を見守る、「くらしの安心ダイヤル」活動を3年前からスタート。

民生児童委員、校区福祉委員会、自治会など、地域のさまざまなボランティアがグループを組んで、申し出のあつた市内約90世帯に対して、声かけ訪問や電話での安否確認、地域行事へのお説明、災害時の安否確認などを行っています。

います。

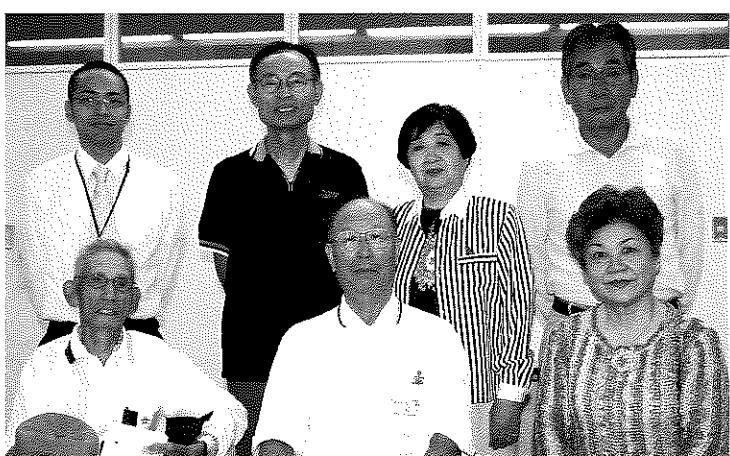
### 助け合いとプライバシーの 兼ね合いか課題

災害時に備えて、箱作校区では独居高齢者や障害者宅を地図上に印をつけ、毎年その情報の更新作業を行っています。しかし独居であることを知られたくないという人々や、個人情報保護法を盾に協力してもらえないことが最近増えてきたとか。「地域で孤立している人をゼロにしたい」という思いで活動していますが、これらの人を災害時にどう守る

開かず風呂場に閉じ込められてしまう事故が発生。隣に住む協力員が戸を叩く音に気づいて、他の協力員に知らせ、鍵を預かっていた校区福祉委員会委員らが駆けつけて、事なきを得ました。

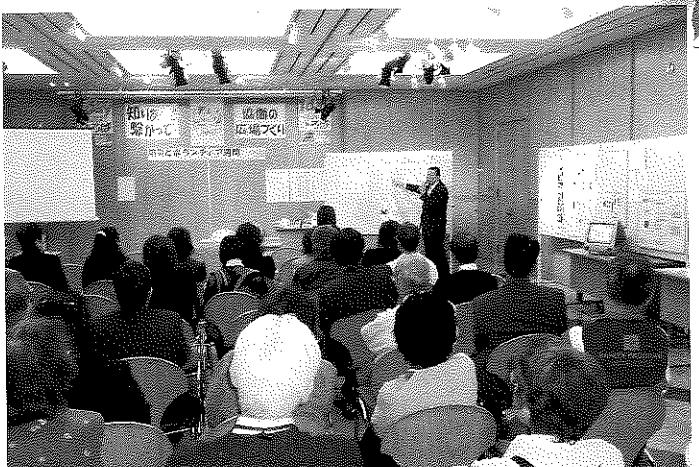
一方、福島校区では小学校の空き教室を活用して、週3回、当番制で8人の高齢者の安否を電話で確認する活動を続けています。「みなさん電話を楽しんでくれて、なかなか電話が切れずにこまることがあるほどです」と、福島校区福祉委員会委員長の福岡賢次さん。安否確認をするなかで、体調を崩していることがわかり、病院へ救急搬送をすることもありました。両校区とも安心して暮らせる利用者からとても喜ばれています。

「くらしの安心ダイヤル」が課題です」と、箱作校区福祉委員会委員長の土海宗市さん。このようないきたいと考えています。といねいな見守り活動が防災につながると期待される「くらしの安心ダイヤル」。今後も向こう三軒両隣が助け合う校区づくりをめざした活動が広がっていくことでしょう。



前列左から、箱作校区の居村明さん、土海宗市さん、川瀬サツキさん  
後列左から、阪南市社協の猪俣健一さん、福島校区の福岡賢次さん、小倉智恵子さん、富岡弘さん

# さまざまな研修に参加して、災害時の活動のあり方を探る。



流出事故の際にボランティアとして現地に出向きましたが、災害はいつどんな力で起るか予測できません。普段から防災に関する知識を深めておくとともに、災害救援ボランティア登録をするグループには、各地で行われる研修などの情報提供をして参加を促しています」と、連絡会長の福永忠さん。

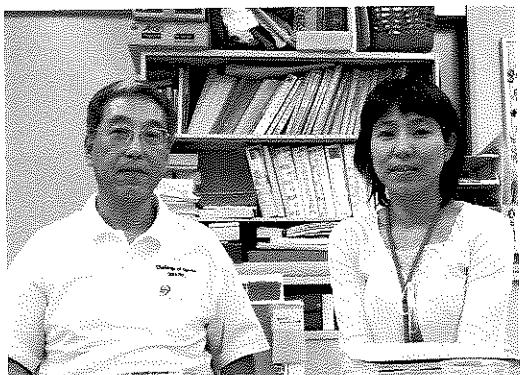
福永さんは、在宅障害者の外出介助をするボランティアグループ「べんべん草」の活動をしていますが、「災害時にどのように障害者を救援するか、避難所での支援のありかたなどさまざまな課題があります。日ごろ行っている活動を災害時にどう活かしていくか、そんなことを考えるヒントになればと研修を重ねてきました」と話します。

「研修といえば事前に主催者側がいろいろとお膳立てをするのが当たり前になっていますが、今回はあえて準備をせず、参加者が自発的に動き、創意工夫しながらボランティアセンターを運営してもらおうと考えています。突然、災害が起つたとき、それぞれがどう動けばいいのかなど、防災を考えるきっかけになればと期待しています」と、東大阪市社協・市民福祉活動センター主任の野嶋歩さん。

## 各地に出向いて見学や研修を重ね、知識を深める

東大阪市ボランティア連絡会では、連絡会に所属する14グループを中心に、灾害救援ボランティアを組織。これまで兵庫県の震災記念館や大阪市防災センターなど、各地に出向いて見学や研修を重ねてきました。

今年の1月17日には「ワンデイ市民活動ひろば」の主催団体のひとつとして、「阪神・淡路大震災や日本海での重油



連絡会会長の福永忠さんと東大阪市社協の野嶋歩さん

**災害時、自分になにができるか、研修を通じて考える  
きづかけづくり**

11月18日、市社協と連絡会が中心になつて「第25回東大阪ボランティア研究集会」が予定されています。テーマは「その時、あなたには何ができる?」、災害シミュレーションをおしてみえてくる。これは参加者が自分たちの力で災害ボランティアセンターを立ち上げ、自分のできることを探つてみようという試みです。

「普段はそれぞれの活動に追われて、なかなか防災を身近なこととして考える機会が少ないのが実情。そのような状況を打ち破ることにつながればと思っていました」と福永さんが話すように、このユニークな研修により、防災意識の高まりが期待されます。

# 災害時の救命率をあげるには、「地域ぐるみの活動にしていく」ことが大切



8月5日、「いっしょに学んで地震に備えよう」と、「親と子の防災セミナー」が日本赤十字社大阪府支部の主催で開催され、36組の小学生と保護者が参加。「災害に備えることの大切さ」などの防災に関する話や、阪神・淡路大震災の被災体験を聞いたり、炊き出し体験、身近なもので応急手当をする方法などを学びました。

## 防災ボランティアが中心となつて、「親と子の防災セミナー」を開催



「親と子の防災セミナー」で指導する防災ボランティア



このイベントを指導したのが、同支部に所属する防災ボランティアのみなさん。子どもたちの防災意識を高め、保護者にも関心をもつてもらおうと、昨年からボランティアが中心となつて開催されています。



防災ボランティアが着用するチョッキを手にする新谷隆博さん

## 地域防災は顔の見える 関係づくりが力を發揮する

赤十字は言うまでもなく、人道と博愛精神のもと世界各地で奉仕活動を行

「防災ボランティアは主に子どもたちの防災意識を啓発する活動を行い、地震や水害などの災害発生時には災害ボランティアとして地域で中心的な役割を担えるよう、研修を重ねています」と、同支部青少年・ボランティア課の新谷隆博さん。

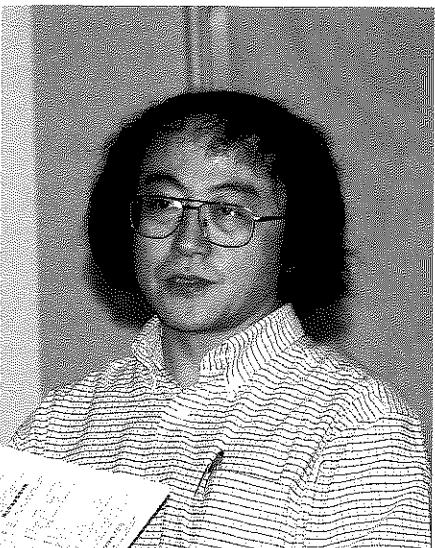
防災ボランティアにはこれらの奉仕団に所属している人も多く、各奉仕団の枠組みを超えた横断的なグループといえます。

「災害時に力を發揮するためには日ごろの活動がとても大切。普段からさまざまな人と顔の見えるネットワークを築いておくと、いざというとき心強い連携が生まれます」と新谷さんが語る。ように、災害時の救命率をあげるために、防災を地域ぐるみの活動にしていく必要があります。

同支部では各地域の赤十字奉仕団が防災への取り組みを行つてきましたが、今後は校区単位といった、より地域密着型の取り組みを強め、社会福祉協議会をはじめとした団体とのネットワークづくりを図つていきたい考え。そのためにも防災ボランティアとして活動できる人をいま以上に増やし、地域の実情を熟知した防災訓練などが行える体制づくりをめざしています。

# 「マンツーマン・ディフェンス」の姿勢が大切

## Interview



大阪大学コミュニケーション  
デザイン・センター 准教授

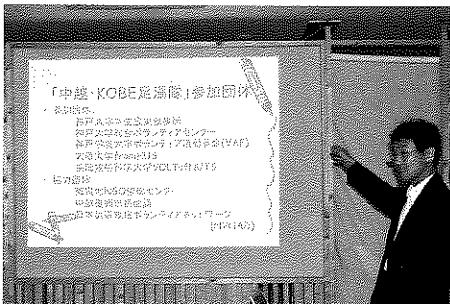
ともひで  
**渥美公秀さん**

「いくつかの被災を経験してきた今で

**災害ボランティアについて  
話し合う「減災カフェ」**

ボランティアグループが日常活動のなかで身につけておられるものだと私は思っています」

地域の日常的な福祉活動、  
それは防災活動でもあるんですね



足湯隊の活動が報告された「減災カフェ」

は、地域の高齢者や障害者、また子どものサポートなど、さまざまな福祉活動に取り組んでおられます。まず申し上げたいのは、実はそうした日常的な活動そのものが、突然的な事故やアクシデントからその人たちをまもる防災活動である、といふ点です。

災害ボランティア論の第一人者、渥美先生は開口一番こう語られます。それが災害時の救援活動になるんです。それが災害時における支援において大切なのは、一人ひとりに寄り添い、ニーズを聞き出し（引き出し）、エンパワメント（元気づけ）していく…という姿勢で、それらは、皆さんの日々の「福祉のまちづくり活動」のベースにあるものです。最近の被災地各地の支援活動を見ていても、そうした「個人に寄り添う」との大切さを痛感しています。

者は、被災者一人ひとりに向き合い、同じ目線になつてニーズを引き出し、サポートすることと言つていいでしょう。そうしたニーズを掘り起こす、仕掛けづくり。が大切で、これは社協の

は、災害が発生しても現地ボランティアセンターの立ち上げは素早く、以前に比べてシステムづくり・仕組みづくりは迅速かつ的確になされるようになりました。しかし、現場における被災者へのサポートがそれで充分かと言うと、必ずしもそうではない。私はよくバスケットに例えて言います。バスケットにはマンツーマン・ディフェンスとマンツーマン・ディフェンスがあります。前者が現地救援本部の立ち上げなどの体制づくりだとすれば、後者は、被災者一人ひとりに向き合い、同じ目線になつてニーズを引き出し、サポートすることと言つていいです。

話をするあとはグループに分かれて意見交換



地震などの自然災害の発生を防ぐことはできなくとも、その被害を少しでも小さくすることはボランティアの活動などで可能ですね。それが「減災」という観点であり、考え方。あらためて「被災地」を支援することとは?についてみんなで考えた集いとなつたようです。

生を防ぐことはできなくとも、その被害を少しでも小さくすることはボランティアの活動などで可能です。それが「減災」という観点であり、考え方。あらためて「被災地」を支援することとは?についてみんなで考えた集いとなつたようです。



地震などの自然災害の発生を防ぐことはできなくとも、その被害を少しでも小さくすることはボランティアの活動などで可能ですね。それが「減災」という観点であり、考え方。あらためて「被災地」を支援することとは?についてみんなで考えた集いとなつたようです。

北 摂

## 福祉まつり・笑顔で暮らせるまち 「ふれあいのつどい」開催 —豊能町—

大阪北部にある豊能町は人口も少なくこじんまりとした町です。当然ボラ連の規模も小さく、できることには限りがあります。

そこで、より多くの住民の方々にふれあえる場の提供をするため地域で活動する福祉や教育機関の4団体（ボランティア連絡会、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、吉川中学校区地域教育協議会）が協力して知恵を出し合い、ふれあいのつどいを開催することとなりました。

吉川中学校を開催地としたこのつどいは今年で2年目を迎え試行錯誤の末、より充実した賑やかなもの



になつたと思います。ボラ連では今回、自然あふれるこの地域にぴったりの「野草茶の試飲」というブースを出店しました。これは豊能町の山林で里山保全の活動をしているボランティアグループの全面協力を受け実現することができた企画です。地元で取れる材料で作つた6種類のお茶を飲み比べてもらうので、各年代の人々に興味をもつていたとき、とても好評でした。

また、それぞれの活動にとどまらず、連絡会としても10月1日・2日の2日間、「赤い羽根共同募金」の街頭募金のボランティアに協力しました。2日間でのべ79人が参加し、枚方市駅前を中心に、通り行く人に声かけを行い募金を呼びかけました。

なかには子どもからの募金もあり、子どもたちが募金箱にお金を入れると、「ありがとうございます」と声をかけ助けあえる：そんな温かい町づくりのお手伝いができたのでないでしょうか。

に参加したボランティアは

スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋、そしてボランティアの秋。

枚方市ボランティアグループ連絡会では、それぞれのグループが地域に施設に学校に、そしてそれぞれの活動場所において、活発に活動を開しており、「実りの秋」を実感しているようです。

「大変忙しい時期ではありますが、募金だけでなく子どもたちから元気を分けてもらいました。この笑顔が活動の励みになりますね」と話していました。

北 河

## 「赤い羽根共同募金」の 街頭募金に協力 —枚方市—



赤い羽根  
共同募金

10月1日▶12月31日

おなじみのやさしさを届けます。  
地域をつくる市民を応援する共同募金会。

[www.akaihane.or.jp](http://www.akaihane.or.jp)

赤い羽根  
共同募金

地域の短大生と交流会を行い、ボランティアの種まき

河 南

地域の短大生と交流会を行い、ボランティアの種まき

河内長野市



河内長野市ボランティア連絡会には12グループがあります。福祉に関わる専門性があり、どんな活動をしているのかたくさんの方々に知つていただくことで理解を広げて行けたらと考えてい

そこで、ボラ連の活動の一つとして、私たちの地域の短期大学で福祉

ことで理解を広げて  
行けたらと考えてい  
ます。

してゐるのかたくらむ

について学んでおられる学生さんとの交流会を実施しました。社会福祉協議会との共催で、個人登録ボランティアさんにも参加していただき、今年で3回目になります。

ボランティア連絡会はボランティアグループの効果的且つ情報交換による円滑な推進を目的に結成されています。その活動として交流会・研修会や各種行事の支援・協力、ボランティアサロン・バザー等を実施しています。

社協のボランティアフェスティバル開催を機会に、ボランティアによる市民活動の必要性や重要性をPRするため各グループの皆様に協力を頂き、ぜひ成功させたいと思っております。

# ボランティア連絡会の活性化と 発展について

泉州

## ボランティア 発展について

高石市



学生さんは毎年卒業していきますので、1年に1回新しい出会いがもてます。今すぐに行動できなくなります。でも、ボランティアについての知識が種となつて心のどこかに残り、いつの日にか芽となつて色々なかたちで育つてほしいと願っています。

また、この交流会ではかのサークルの話を聞き、「勉強になつたわ。情報の幅を広げるのは大事やね」とのボランティアさんの声に思わず成果と喜んでいます。

最近は、ボランティアのあり方と多様化し、環境・防災・安全性等新しい視野に立って活動しており、より一層社会の変化に対応できるよう各グループ・自治会との連携を深めていきたいと思っております。

最近は、ボランティアのあり方と多様化し、環境・防災・安全性等新しい視野に立って活動しており、より一層社会の変化に対応できるよう各グループ・自治会との連携を深めていきたいと思っております。

ボランティア連絡会はボランティアの効果的且つ情報交換による円滑な推進を目的に結成されています。その活動として交流会・研修会や各種行事の支援・協力、ボランティアサロン・バザー等を実施しています。

社協のボランティアフェスティバル開催を機会に、ボランティアによる市民活動の必要性や重要性をP.R.するため各グループの皆様に協力を頂き、ぜひ成功させたいと思つております。

## 情報コーナー

### 豊中市 ポーラーマンバザー2007

師にボランティアコーディネーターのありかたについて考えます。

ノーマライゼーションの社会を実現するため、市民・企業・行政が協働で実施する市民交流イベントです。バザーの収益金は、福祉の店「なかも」に寄付します。

日時 11月24日（祝・土）11時～15時  
場所 千里川ライフサイエンスセンター  
問合せ ボランティア活動推進センター  
【ふるさと】  
ターミナルアトリウム

日時 11月24日（祝・土）11時～15時  
場所 千里川ライフサイエンスセンター  
問合せ ボランティア活動推進センター  
【ふるさと】  
ターミナルアトリウム

### 福祉まつり2007

芸能発表会、作品展示、模擬店、卓球、手話・朗読「一人一人、ボランティアふれあいコーナー、福祉機器の展示など盛りだくさんの内容で開催します。

日時 11月4日（日）10時～16時  
場所 総合福祉センター（野田町）

### 第55回ボランティアサロン

未経験の方もお気軽に。ボランティア活動をしている方と交流し、実践に基づいたお話を聞きました。

日時 12月15日（土）14時～16時  
場所 総合福祉センター（野田町）2階  
問合せ 岸和田市ボランティアセンター  
【ふるさと】

### 施設ボランティア コーディネーター支援セミナー

ボランティアの受け入れで悩んでいませんか。大阪教育大学准教授・新崎国広氏を講師にボランティアの受け入れで悩んでいませんか。大阪教育大学准教授・新崎国広氏を講

### 八尾市 ボランティアのための歌体操講座

寝たきりに「ならない、させない、つからない」歌体操を習得してボランティア活動に活かしましょう。

日時 11月10日（土）14時～18時  
場所 ラポールひらかた4階大研修室  
受講料 1000円  
枚方市ボランティアセンター  
問合せ 072（841）0181

日時 12月4日（火）、11日（火）、18日（火）  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 交野市健康福祉フェスティバル

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 第16回 和泉ボランティアフェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 河南町 フェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月17日（土）  
場所 和泉中央駅アーバンモール広場  
問合せ アイ・あいロビー  
TEL 072（57）0204  
FAX 03（5470）7755  
（35団体を団結）

### 2007 河南町ボランティアフェスティバル

（35団体を団結）

### 平成20年度（第14回） キリン福祉財団公募助成

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 助成金情報

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 平成19年度「連合・愛のカンパ」

●受付期間  
11月12日（月）当田酒品有効  
●問合せ先  
財團法人キリン福祉財團事務局  
東京都中央区新川2丁目10番1号  
TEL 03（5040）3400  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 八尾市 ボランティアのための歌体操講座

寝たきりに「ならない、させない、つからない」歌体操を習得してボランティア活動に活かしましょう。

日時 11月10日（土）14時～18時  
場所 ラポールひらかた4階大研修室  
受講料 1000円  
枚方市ボランティアセンター  
問合せ 072（841）0181

日時 12月4日（火）、11日（火）、18日（火）  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 交野市健康福祉フェスティバル

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 第16回 和泉ボランティアフェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 河南町 フェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月17日（土）  
場所 和泉中央駅アーバンモール広場  
問合せ アイ・あいロビー  
TEL 072（57）0204  
FAX 03（5470）7755  
（35団体を団結）

### 2007 河南町ボランティアフェスティバル

（35団体を団結）

### 平成20年度（第14回） キリン福祉財団公募助成

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 助成金情報

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 八尾市 ボランティアのための歌体操講座

寝たきりに「ならない、させない、つからない」歌体操を習得してボランティア活動に活かしましょう。

日時 11月10日（土）14時～18時  
場所 ラポールひらかた4階大研修室  
受講料 1000円  
枚方市ボランティアセンター  
問合せ 072（841）0181

日時 12月4日（火）、11日（火）、18日（火）  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 交野市健康福祉フェスティバル

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 第16回 和泉ボランティアフェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 河南町 フェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月17日（土）  
場所 和泉中央駅アーバンモール広場  
問合せ アイ・あいロビー  
TEL 072（57）0204  
FAX 03（5470）7755  
（35団体を団結）

### 2007 河南町ボランティアフェスティバル

（35団体を団結）

### 平成20年度（第14回） キリン福祉財団公募助成

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 助成金情報

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 八尾市 ボランティアのための歌体操講座

寝たきりに「ならない、させない、つからない」歌体操を習得してボランティア活動に活かしましょう。

日時 11月10日（土）14時～18時  
場所 ラポールひらかた4階大研修室  
受講料 1000円  
枚方市ボランティアセンター  
問合せ 072（841）0181

日時 12月4日（火）、11日（火）、18日（火）  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 交野市健康福祉フェスティバル

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 第16回 和泉ボランティアフェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 河南町 フェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月17日（土）  
場所 和泉中央駅アーバンモール広場  
問合せ アイ・あいロビー  
TEL 072（57）0204  
FAX 03（5470）7755  
（35団体を団結）

### 2007 河南町ボランティアフェスティバル

（35団体を団結）

### 平成20年度（第14回） キリン福祉財団公募助成

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 助成金情報

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 八尾市 ボランティアのための歌体操講座

寝たきりに「ならない、させない、つからない」歌体操を習得してボランティア活動に活かしましょう。

日時 11月10日（土）14時～18時  
場所 ラポールひらかた4階大研修室  
受講料 1000円  
枚方市ボランティアセンター  
問合せ 072（841）0181

日時 12月4日（火）、11日（火）、18日（火）  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 交野市健康福祉フェスティバル

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 第16回 和泉ボランティアフェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 河南町 フェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月17日（土）  
場所 和泉中央駅アーバンモール広場  
問合せ アイ・あいロビー  
TEL 072（57）0204  
FAX 03（5470）7755  
（35団体を団結）

### 2007 河南町ボランティアフェスティバル

（35団体を団結）

### 平成20年度（第14回） キリン福祉財団公募助成

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 助成金情報

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 八尾市 ボランティアのための歌体操講座

寝たきりに「ならない、させない、つからない」歌体操を習得してボランティア活動に活かしましょう。

日時 11月10日（土）14時～18時  
場所 ラポールひらかた4階大研修室  
受講料 1000円  
枚方市ボランティアセンター  
問合せ 072（841）0181

日時 12月4日（火）、11日（火）、18日（火）  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 交野市健康福祉フェスティバル

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 第16回 和泉ボランティアフェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 河南町 フェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月17日（土）  
場所 和泉中央駅アーバンモール広場  
問合せ アイ・あいロビー  
TEL 072（57）0204  
FAX 03（5470）7755  
（35団体を団結）

### 2007 河南町ボランティアフェスティバル

（35団体を団結）

### 平成20年度（第14回） キリン福祉財団公募助成

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 助成金情報

●助成対象  
地域における子育てに関わるボランティア活動に対して助成。4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。

●助成金額  
1団体当たりの上限額30万円（総額3300万円）

### 八尾市 ボランティアのための歌体操講座

寝たきりに「ならない、させない、つからない」歌体操を習得してボランティア活動に活かしましょう。

日時 11月10日（土）14時～18時  
場所 ラポールひらかた4階大研修室  
受講料 1000円  
枚方市ボランティアセンター  
問合せ 072（841）0181

日時 12月4日（火）、11日（火）、18日（火）  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 交野市健康福祉フェスティバル

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03（5040）3400  
HP : <http://www.kirin.co.jp/foundation>

### 第16回 和泉ボランティアフェスティバル

和泉から、地域のK-NUNAで、たすけあい

日時 11月11日（日）9時45分～15時  
場所 交野市ゆうゆうセンター  
問合せ 交野市社会福祉協議会  
TEL/FAX 072（5000）1180  
FAX 03

1、大学生を中心となつて行うボランティア活動。新たにグループを結成し、これから活動する新規の計画案でも応募可能。

2、2008年6月に予定している活動報告会（会場は東京都内を予定）に参加し、結果もしくは経過を報告できる活動。

3、2008年1～5月の間にスタートできる活動。

- 助成金額  
1グループにつき上限25万円
- 応募期間  
11月16日（金）必着。
- 問合せ先  
東京都港区白金台1-2-37  
明治学院大学 ボランティアセンター内 ソーマーケティング学生ボランティアファンド事務局  
TEL・FAX 03(5421)5131  
[WWW.SONY.CO.JP/V](http://www.sony.co.jp/v)

## 平成20年度 年賀寄附金

### ●助成対象

- ①社会福祉の増進を目的とする事業、  
②災害の被災者救助、防災、③がん、  
結核、小児まひ、その他特殊な疾患の  
学術研究、治療、予防、④被爆者援助、  
⑤交通事故・水難の救助・防止、⑥文  
化財保護、⑦青少年健全育成、⑧スポーツ  
振興、⑨留学生の援護、⑩地球環境  
の保全。

### ●助成金額

- ①「一般プログラム」50万円を超える  
500万円以下  
②「チャレンジプログラム」50万円まで  
(年賀寄附金ホームページ参照)

●応募期間  
申請書類に記入の上、11月30日（金）  
消印有効

●問合せ先  
東京都千代田区霞が関1-3-2  
郵政事業株式会社 年賀寄附事務局  
TEL 03(3504)4401  
FAX 03(35180)5399

# 災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練を実施！ ～災害ボランティアセンターを疑似体験～



9月22日（土）、住之江公園にて行われた「大阪府・大阪市合同総合防災訓練」において、大阪府社協は大阪市社協と合同で「災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練」を実施し、大阪府内および大阪市内の社協職員とボランティアの合計104人が参加しました。

当日は大阪府社協で作成した「災害ボランティアセンター運営マニュアル」を活用し、ボランティア活動上の注意事項、現地地図、ボランティアセンター三原則（被災者本位、地元主体、無理をしない）などの掲示をおこない、実際の災害ボランティアセンターを再現した臨場感たっぷりの屋外テントで、①ボランティアの受付、②被災者からのニーズの聞き取り、③ボランティアと依頼ニーズのコーディネートといったセンター運営の基本となる3つの場面を、ロールプレイを通じて参加者それぞれが体験しました。

被災者からのニーズ聞き取りに参加したボランティアからは「被災者役の人の話を聞き出すことが思っていたよりも難しかった」や「被災地でのボランティア活動を経験したことはないが、センターの活動をイメージすることができた」という声が聞かれました。

大阪府社協では、災害に備えた日頃からの取り組みや、災害時における福祉救援活動について、今後も取り組みをすすめています。



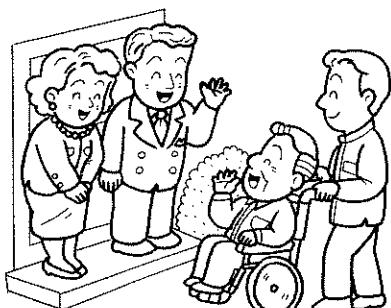
大阪府社協では、平成19年3月に「災害ボランティアセンター運営マニュアル」を作成しました

# ボランティア活動保険 Q&A

今回は、ボランティア活動総合補償制度に関するご質問の中で、特にご照会の多いものについてご案内いたします。

**Q<sup>1</sup>** Aさんは、A市のボランティアグループで活動しており、A市社協の登録ボランティアとしてボランティア活動保険に加入しています。Aさんは同一府県内のB市のボランティアグループでもボランティア活動に参加しようと考えていますが、改めてB市社協でボランティア活動保険に加入する必要があるのでしょうか。

**A<sup>1</sup>** 改めて加入する必要はありません。ボランティア活動保険は国内におけるすべてのボランティア活動を対象にしています。なお、ほかのボランティアグループで加入した場合でも、適用される補償はいずれか一方のボランティア活動保険のみとなりますのでご注意ください。



**Q<sup>2</sup>** ボランティア活動保険に加入しているボランティアグループのメンバーが活動中、ボランティアグループが所有する機材を落として壊てしまいました。この場合、ボランティア活動保険の補償対象になりますか。

**A<sup>2</sup>** 対象になります。ただし、壊したもののがボランティア個人の所有物であれば、補償の対象なりません。



**Q<sup>3</sup>** NPO法人が認知症高齢者を対象にしたグループホームを新しく開設しました。非営利・有償活動団体保険に加入することで、事業実施に伴う様々なリスクが補償されますか。

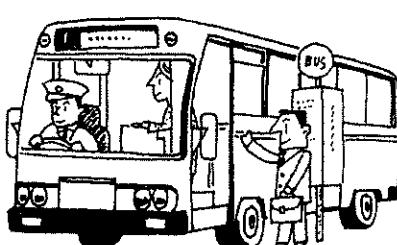
**A<sup>3</sup>** 非営利・有償活動団体保険は、おもに小規模の非営利活動団体を加入対象としていますが、介護保険サービスのケアプラン作成ミスによる経済的損失やサービス利用者への人格権侵害、現金・貴重品の保管責任などは補償することができないなど、すべてのリスクを補償できない場合があります。

介護保険事業など、活動内容を幅広く補償する賠償責任保険につきましては、別途大阪府社会福祉協議会保険事業グループ（06-6766-7377）までお問い合わせください。



**Q<sup>4</sup>** 児童養護施設でのボランティア活動をしています。活動先から往復の交通費を受け取っていますが、ボランティア活動保険に加入できますか。

**A<sup>4</sup>** 加入できます。活動先への往復の交通費は実費の範囲に含まれます。なお、交通費・食事代・材料費など活動に関する「実費弁償」の範囲を超える費用を受け取る場合は、ボランティア活動保険の対象外となります。



# 大阪府内のボランティアセンター一覧

大阪府ボランティア・市民活動センター

〒542-0065 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内 TEL:06-6762-9631 FAX:06-6762-9679

市町村名	所 在 地	電 話	FAX
北 摂			
池田市	563-0041 池田市満寿美町6-23	072-753-8858	072-753-3444
茨木市	567-0888 茨木市駅前4-7-55 茨木市福祉文化会館内	072-627-0086	072-627-0086
島本町	618-0022 島本町桜井3-4-1 ふれあいセンター内	075-962-5417	075-962-6325
吹田市	564-0072 吹田市出口町19-2 吹田市立総合福祉会館内	06-6339-1210	06-6339-1202
摂津市	566-0022 摂津市三島1-1-1 摂津市役所西別館内	06-6318-1128	06-6383-9102
高槻市	569-0804 高槻市紺屋町3-1-303 グリーンプラザ3号館3階	072-683-2200	072-683-2209
豊中市	561-0881 豊中市中桜塚2-28-7 豊中市立福祉会館内	06-6848-1000	06-6841-2388
豊能町	563-0101 豊能町吉川187 町立保健福祉総合施設豊悠プラザ内	072-738-5370	072-738-0524
能勢町	563-0341 能勢町宿野114	072-734-0770	072-734-2623
箕面市	562-0036 箕面市船場西1-11-35	072-749-1535	072-727-3590

## 河 北

交野市	576-0034 交野市天野が原町5-5-1 交野市立保健福祉総合センター内	072-894-3737	072-894-3737
門真市	571-0064 門真市御堂町14-1 門真市保健福祉センター内	06-6902-6453	06-6904-1456
四條畷市	575-0043 四條畷市北出町3-1	072-878-1210	072-878-6888
大東市	574-0037 大東市新町13-13 大東市立総合福祉センター内	072-874-1082	072-874-1828
寝屋川市	572-0036 寝屋川市池田西町28-22 寝屋川市立総合センター内	072-838-0400	072-838-0166
枚方市	573-1191 枚方市新町2-1-35 ラポールひらかた内	072-841-0181	072-841-0182
守口市	570-0083 守口市京阪本通2-13-1 さつきホールもりぐち内	06-6992-2715	06-6993-0134

## 河 南

大阪狭山市	589-0021 大阪狭山市今熊1-85 大阪狭山市福祉センター内	072-367-6601	072-366-7407
柏原市	582-0018 柏原市大県4-15-35 健康福祉センター内	072-972-6760	072-972-6761
河南町	585-0014 河南町大字白木1371	0721-93-6299	0721-93-5299
河内長野市	586-0041 河内長野市大師町26-1	0721-65-0133	0721-65-0143
太子町	583-0991 太子町大字春日963-1 総合福祉センター内	0721-98-1311	0721-98-2111
千早赤阪村	585-0041 千早赤阪村大字水分195-1 保健センター内	0721-72-0081	0721-70-2037
富田林市	584-0037 富田林市宮甲田町9-9 富田林市総合福祉会館内	0721-25-8200	0721-25-8230
羽曳野市	583-8585 羽曳野市薺田4-1-1 羽曳野市立総合福祉センター内	072-958-2315	072-958-3853
東大阪市	577-0054 東大阪市高井田元町1-2-13 東大阪市立総合福祉センター内	06-6789-5550	06-6789-5611
藤井寺市	583-0035 藤井寺市北岡1-2-8 ふれあいセンター内	072-938-8220	072-938-8221
松原市	580-0015 松原市新堂1-589-6 松原市立総合福祉会館内	072-339-0741	072-339-0741
八尾市	581-0018 八尾市青山町4-4-18 サポートやお内	072-925-1045	072-925-1161

## 泉 州

泉大津市	595-0026 泉大津市東雲町9-15 泉大津市立総合福祉センター内	0725-23-1393	0725-23-1394
和泉市	594-0041 和泉市いぶき野5-1-7 アイ・あいロビー内	0725-57-0294	0725-57-3294
泉佐野市	598-0007 泉佐野市上町1-2-9 泉佐野市立福祉センター内	072-464-2259	072-462-5400
貝塚市	597-0072 貝塚市畠中1-18-8 保健・福祉合同庁舎内	072-439-0294	072-439-0035
岸和田市	596-0076 岸和田市野田町1-5-5 岸和田市立福祉総合センター内	072-430-3366	072-430-3367
熊取町	590-0451 熊取町野田1-1-8 熊取ふれあいセンター内	072-452-6001	072-452-2658
泉南市	590-0521 泉南市樽井1-8-47 泉南市総合福祉センター内	072-483-0294	072-483-0353
高石市	592-0011 高石市加茂4-1-1	072-265-7600	072-261-9375
田尻町	598-0091 田尻町嘉祥寺883-1	072-466-5015	072-466-8841
忠岡町	595-0812 忠岡町忠岡中2-16-25	0725-31-1666	0725-31-3555
阪南市	599-0201 阪南市尾崎町35-1 阪南市役所内	072-471-5678	072-471-7900
岬町	599-0303 岬町深日3238-24	072-492-5700	072-492-5701

# ボランティア・市民活動保険のごあんない

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア活動保険		
補償内容	ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。	
傷害部分	本ボランティアのケガ	Bプラン Cプラン（天災担保）
	死亡・後遺障害	死亡・後遺障害
	入院（1日あたり）9,000円	入院（1日あたり）6,000円
	通院（1日あたり）6,000円	通院（1日あたり）4,000円
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
	特定感染症	補償します 補償します
賠償部分	天災	× 補償します
	対人	対人、対物共通 最高 5億円
	対物	対人、対物共通 最高 5億円
見死亡見舞金	死本人の	死亡 30万円 死亡 30万円
保険料	ボランティア 1名 年間（中途加入でも同じ）	
	500円	700円
加入できる人や対象となる活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>無償であること（交通費、食事代など除く）</li> <li>自助活動ではないこと</li> <li>活動のための会議や、往復途上も含む</li> </ul>	
保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで (中途加入の場合は受付日の翌日から)	

各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険										
補償内容	ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。									
傷害部分	本参加者のケガ	I型（宿泊なし） II型（宿泊あり）								
	死亡	500万円								
	後遺障害	15～500万円								
	入院（1日あたり）	3,000円								
	通院（1日あたり）	2,000円								
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額									
賠償部分	対人	1名あたり 最高1億円 1事故あたり 最高2億円								
	対物	1事故あたり 最高500万円								
	死本人の見死亡見舞金									
保険料	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特型</th> <th>II型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A区分 30円</td> <td>1泊2日 248円</td> </tr> <tr> <td>B区分 130円</td> <td>2泊3日 256円</td> </tr> <tr> <td>C区分 253円</td> <td>4泊5日 328円</td> </tr> </tbody> </table>		特型	II型	A区分 30円	1泊2日 248円	B区分 130円	2泊3日 256円	C区分 253円	4泊5日 328円
特型	II型									
A区分 30円	1泊2日 248円									
B区分 130円	2泊3日 256円									
C区分 253円	4泊5日 328円									
ボランティア団体や市民団体が主催する行事（スポーツ活動や自助活動も含む）										
保険有効期間 (開催前日までに受付が必要)										

各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険						
補償内容	ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。					
傷害部分	本参加者のケガ	Aプラン Bプラン				
	死亡	202万円 500万円				
	後遺障害	6～202万円 後遺障害 15～500万円				
	入院（1日あたり）	3,000円				
	通院（1日あたり）	2,000円				
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額					
賠償部分	対人	1名あたり 1億円 1事故あたり 2億円				
	対物	500万円				
	死本人の見死亡見舞金					
保険料	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Aプラン</th> <th>Bプラン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,900円</td> <td>6,300円</td> </tr> </tbody> </table>		Aプラン	Bプラン	4,900円	6,300円
Aプラン	Bプラン					
4,900円	6,300円					
加入できる人や対象となる活動 営利目的ではないが利用者から実費を越える報酬を得ている活動、団体						
加入できる人や対象となる活動	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日～)					

移送サービス活動に 移送中事故傷害保険						
補償内容	移送サービス事業の活動中に、車両に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。					
傷害部分	本参加者のケガ	I型（車両特定） II型（車両不特定）				
	死亡	266.0万円 死亡 192.4万円				
	後遺障害	7.9～266.0万円 後遺障害 5.7～192.4万円				
	入院（1日あたり）	3,000円				
	通院（1日あたり）	2,000円				
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額					
賠償部分	対人					
	対物					
	死本人の見死亡見舞金					
保険料	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I型</th> <th>II型</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,000円 (車定員1名あたり)</td> <td>2,000円 (記名利用者1名あたり)</td> </tr> </tbody> </table>		I型	II型	2,000円 (車定員1名あたり)	2,000円 (記名利用者1名あたり)
I型	II型					
2,000円 (車定員1名あたり)	2,000円 (記名利用者1名あたり)					
加入できる人や対象となる活動 移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者						
加入できる人や対象となる活動	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日～)					
保険有効期間						

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともにお申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社

大阪金融公務部 第四課 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9

TEL.06-6233-1536 FAX.06-6233-0204

ホームページ www.ms-ins.com

各種損害保険・生命保険取扱 島本保険事務所

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号

大阪センタービル2階（伊藤忠ビル）

TEL.06-6252-4520 FAX.06-6245-4686